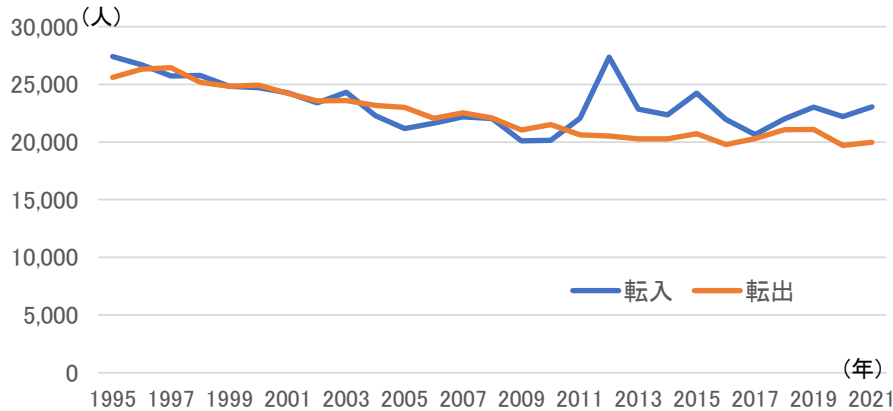
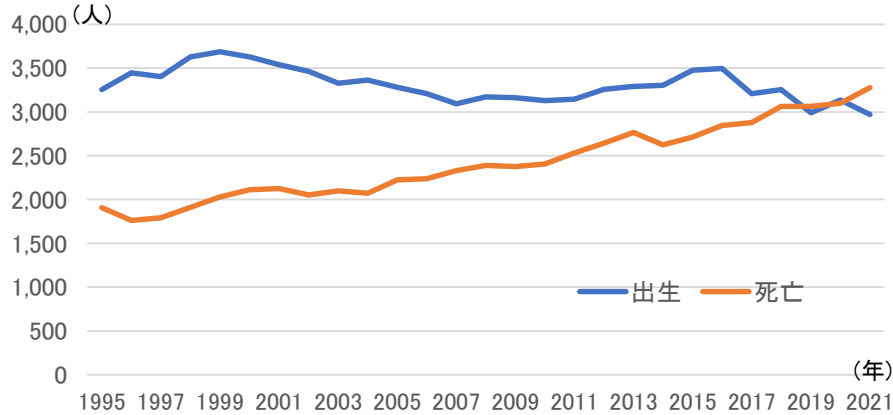


# 吹田市の特徴(データ集) 1 人口増加率が高いまち

## 吹田市の状況

【人口の自然動態・社会動態】



(資料)厚生労働省「人口動態調査」

- 府内他都市と比較して、人口増加率が高い状況にある。
- 自然動態は死亡数が出生数を上回っているが、社会動態は転入が転出を上回り、吹田市の人口は増加傾向にある。

## 他都市との比較

【5年間の人口増減率(府内市町村 上位30自治体)】

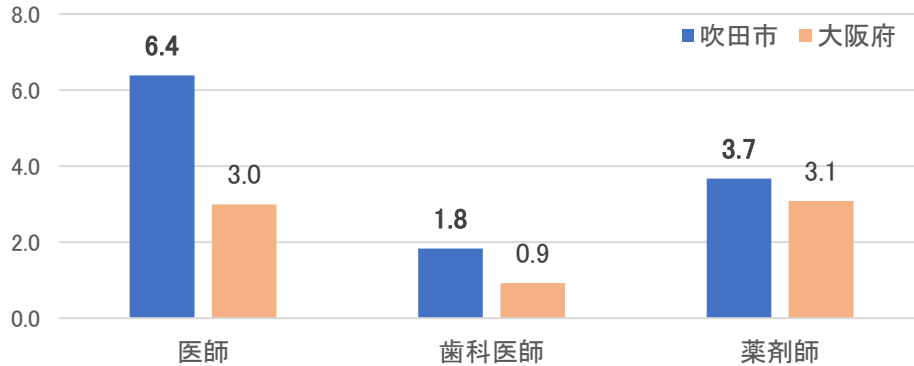
平成27年～令和2年			平成22年～平成27年		
順位	市町村	人口増減率(%)	順位	市町村	人口増減率(%)
1	島本町	3.15	1	吹田市	5.25
2	吹田市	2.96	2	田尻町	4.11
3	摂津市	2.88	3	島本町	3.62
4	茨木市	2.75	4	箕面市	2.71
5	箕面市	2.59	5	茨木市	1.90
6	大阪市	2.28	6	豊中市	1.58
7	池田市	1.87	7	摂津市	1.54
8	豊中市	1.54	8	大阪市	0.97
9	大阪狭山市	1.11	9	和泉市	0.61
10	高槻市	0.25	10	泉佐野市	0.16
11	田尻町	0.20	11	寝屋川市	-0.29
12	守口市	0.04	12	堺市	-0.32
13	泉佐野市	-0.83	13	大阪狭山市	-0.75
14	和泉市	-0.87	14	枚方市	-0.94
15	熊取町	-1.51	15	八尾市	-0.98
16	八尾市	-1.55	16	藤井寺市	-1.10
17	堺市	-1.57	17	池田市	-1.11
18	高石市	-1.58	18	東大阪市	-1.32
19	四條畷市	-1.60	19	熊取町	-1.47
20	枚方市	-1.70	20	高槻市	-1.55
21	東大阪市	-1.76	21	交野市	-1.61
22	交野市	-1.83	22	貝塚市	-1.99
23	泉大津市	-1.96	23	泉大津市	-2.13
24	岸和田市	-2.18	24	岸和田市	-2.17
25	松原市	-2.57	25	守口市	-2.49
26	河南町	-2.66	26	四條畷市	-2.57
27	藤井寺市	-2.67	27	泉南市	-3.05
28	門真市	-3.08	28	松原市	-3.09
29	大東市	-3.12	29	太子町	-3.32
30	寝屋川市	-3.28	30	大東市	-3.38

(資料)総務省「国勢調査」

## 2 医療が充実しているまち

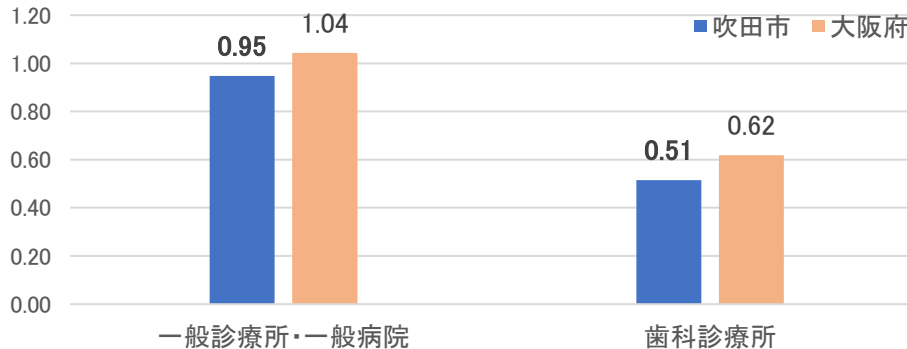
### 吹田市の状況

【人口千人あたり医療従事者数(2020年)】



(資料)厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」、大阪府「大阪府統計年鑑」より作成

【人口千人あたり医療施設数(2021年)】



(資料)厚生労働省「医療施設調査」、大阪府「大阪府統計年鑑」より作成

- 人口千人あたりの医療従事者は大阪府平均を上回っており、特に医師数は倍以上の水準となっている。
- 近隣他都市と比較しても、人口千人あたりの医師数・病院数ともに、高い水準にある。

### 他都市との比較

【人口千人あたり医師数・病院数】

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口千人 あたり医師数 (2018年)
1	吹田市	6.36
2	高槻市	4.13
3	枚方市	3.05
4	池田市	2.48
5	岸和田市	2.43
6	箕面市	2.32
7	豊中市	2.18
8	八尾市	2.01
9	東大阪市	1.86
10	茨木市	1.67
11	寝屋川市	1.66
12	摂津市	1.07

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口千人 あたり病院数 (2019年)
1	豊中市	1.07
2	池田市	1.03
3	吹田市	0.91
4	箕面市	0.88
5	高槻市	0.88
6	茨木市	0.86
7	東大阪市	0.86
8	寝屋川市	0.84
9	八尾市	0.84
10	岸和田市	0.81
11	枚方市	0.76
12	摂津市	0.69

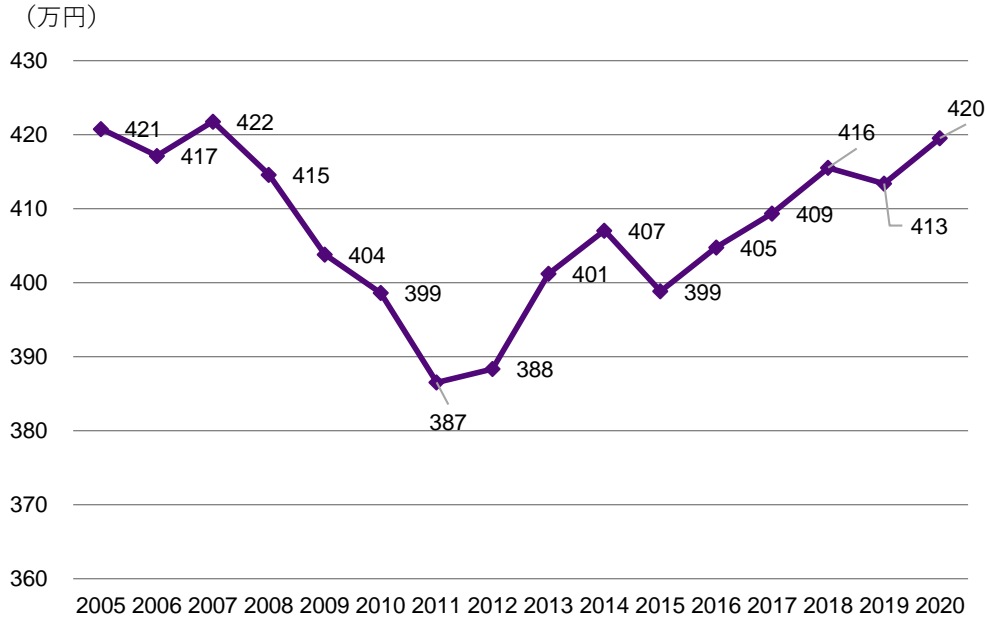
(資料)総務省「統計でみる市区町村のすがた 2022」、大阪府「大阪府統計年鑑」より作成

(注) 病院数は、一般病院数と一般診療所数の合計。

### 3 所得の多い人が多く住むまち

#### 吹田市の状況

【納税義務者1人当たりの課税対象所得推移】



(資料)総務省「市町村税課税状況等の調査」

- 納税義務者一人当たりの課税対象所得は400万円前後で推移しており、全国の中核市と比較しても一人あたりの課税対象所得の水準は非常に高い。

#### 他都市との比較

【納税義務者1人当たりの課税対象所得(2020年)】

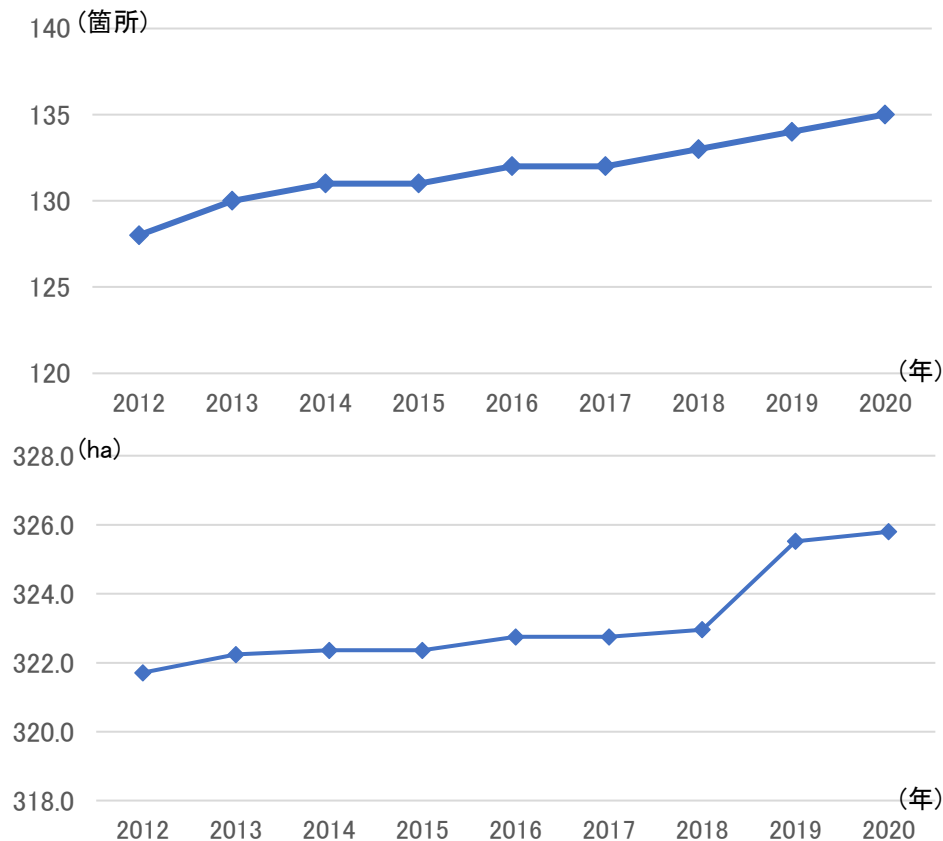
順位	中核市	金額(万円)
1	西宮市	435
2	豊中市	425
3	吹田市	420
4	豊田市	378
5	岡崎市	371
6	奈良市	371
7	柏市	369
8	船橋市	366
9	大津市	356
10	八王子市	356

(資料)総務省「令和2年度市町村課税状況等の調査」

## 4 公園が広く、たくさんあるまち

### 吹田市の状況

【都市公園数・都市公園面積】



(資料)大阪府「大阪府統計年鑑」

- 北摂地域の他市および府内中核市・施行時特例市と比較して、人口あたりの都市公園面積は大きくなっている。
- 都市公園数、都市公園面積は、いずれも増加している。

### 他都市との比較

【人口あたり都市公園面積】

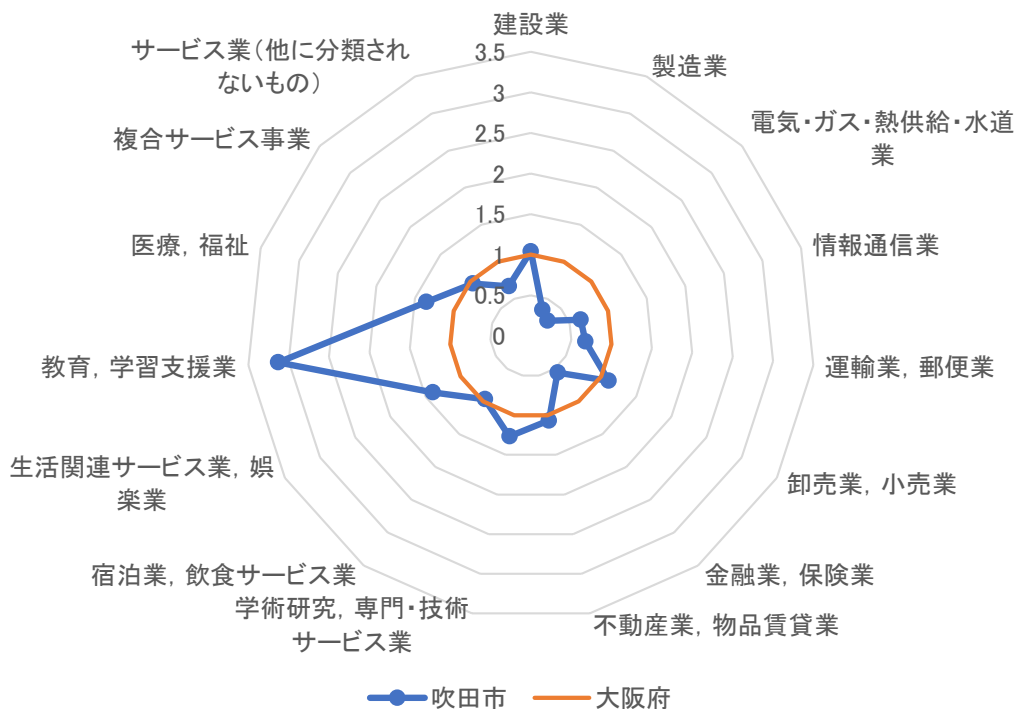
令和2年		
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	1人当たり公園 面積(m <sup>2</sup> /人)
1	箕面市	17.20
2	池田市	12.58
3	岸和田市	8.77
4	吹田市	8.49
5	豊中市	6.86
6	摂津市	5.67
7	寝屋川市	5.61
8	枚方市	5.58
9	高槻市	5.38
10	茨木市	3.78
11	八尾市	2.85
12	東大阪市	2.84

(資料)大阪府「大阪府統計年鑑」

# 5 教育に関わる人が多くいるまち

## 吹田市の状況

【特化係数(従業者数・対大阪府比率)(2016年)】



(資料)総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

(注)「農業、林業」、「漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」は、吹田市、大阪府ともに従業者数が僅少であり、特化係数が実態と乖離するため、図表から除いている。

- 大阪府を基準とした業種別特化係数(従業者数ベース)をみると、「教育、学習支援業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「医療、福祉」、「学術研究、専門・技術サービス業」が高水準となっている。
- 学校や学習塾、公民館・図書館などが含まれる「教育、学習支援業」の人口あたり事業所数・従業者数を近隣他都市と比較すると、特に従業者数が上位にある。

## 他都市との比較

【教育産業 事業所数・従業者数(2016年)】

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口千人 あたり 事業所数
1	豊中市	1.57
2	池田市	1.55
3	茨木市	1.44
4	岸和田市	1.37
5	吹田市	1.29
6	八尾市	1.24
7	枚方市	1.20
8	箕面市	1.19
9	東大阪市	1.15
10	高槻市	1.15
11	摂津市	1.14
12	寝屋川市	1.02

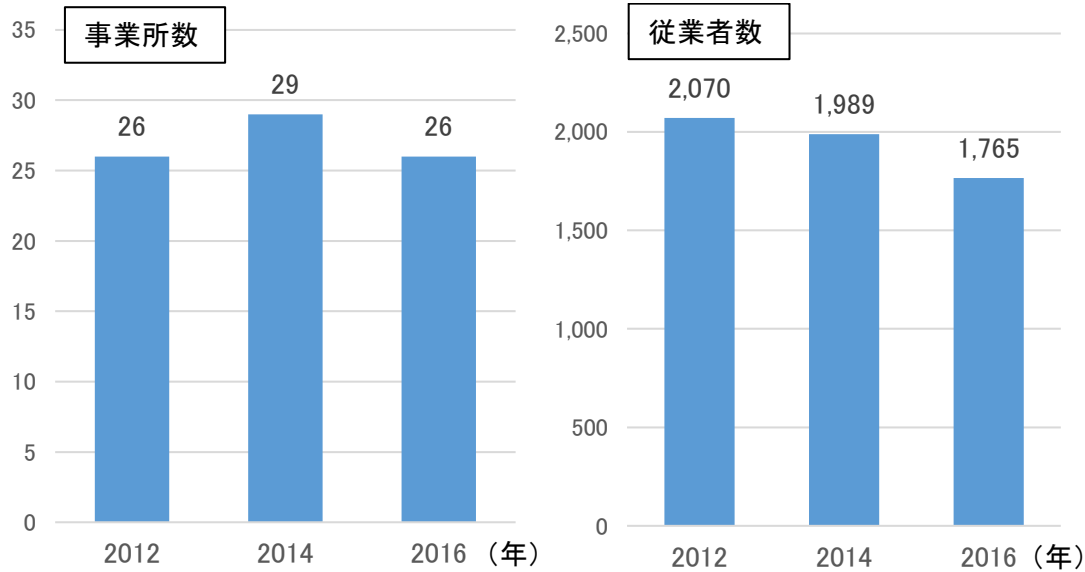
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口千人 あたり 従業者数
1	吹田市	39.11
2	豊中市	22.95
3	茨木市	20.08
4	東大阪市	16.15
5	箕面市	15.63
6	摂津市	15.00
7	枚方市	13.29
8	池田市	11.92
9	寝屋川市	11.23
10	高槻市	10.44
11	岸和田市	8.19
12	八尾市	7.63

(資料)総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

## 6 学術研究機関が多いまち

### 吹田市の状況

【学術・開発研究機関 事業所数・従業者数の推移】



(資料)総務省・経済産業省「平成24・平成28年経済センサス活動調査」、「平成26年経済センサス基礎調査」

(注)各調査時点の産業分類における中分類「71学術・開発研究機関」に該当する事業所および従業者数

- 近隣他都市と比較して、学術・研究機関の事業所数・従業者数は多くなっている。
- 一方で、2012年から2016年にかけて、従業者数が減少傾向にある。

### 他都市との比較

【学術・開発研究機関 事業所数・従業者数(2016年)】

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	事業所数
1	茨木市	34
2	吹田市	26
3	東大阪市	21
4	豊中市	18
5	高槻市	9
6	寝屋川市	8
7	枚方市	7
7	摂津市	7
9	池田市	5
10	八尾市	3
10	箕面市	3
12	岸和田市	1

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	従業者数
1	吹田市	1,765
2	茨木市	1,290
3	豊中市	1,174
4	摂津市	723
5	高槻市	694
6	寝屋川市	667
7	池田市	343
7	豊中市	343
9	箕面市	218
10	枚方市	109
11	八尾市	71
12	岸和田市	2

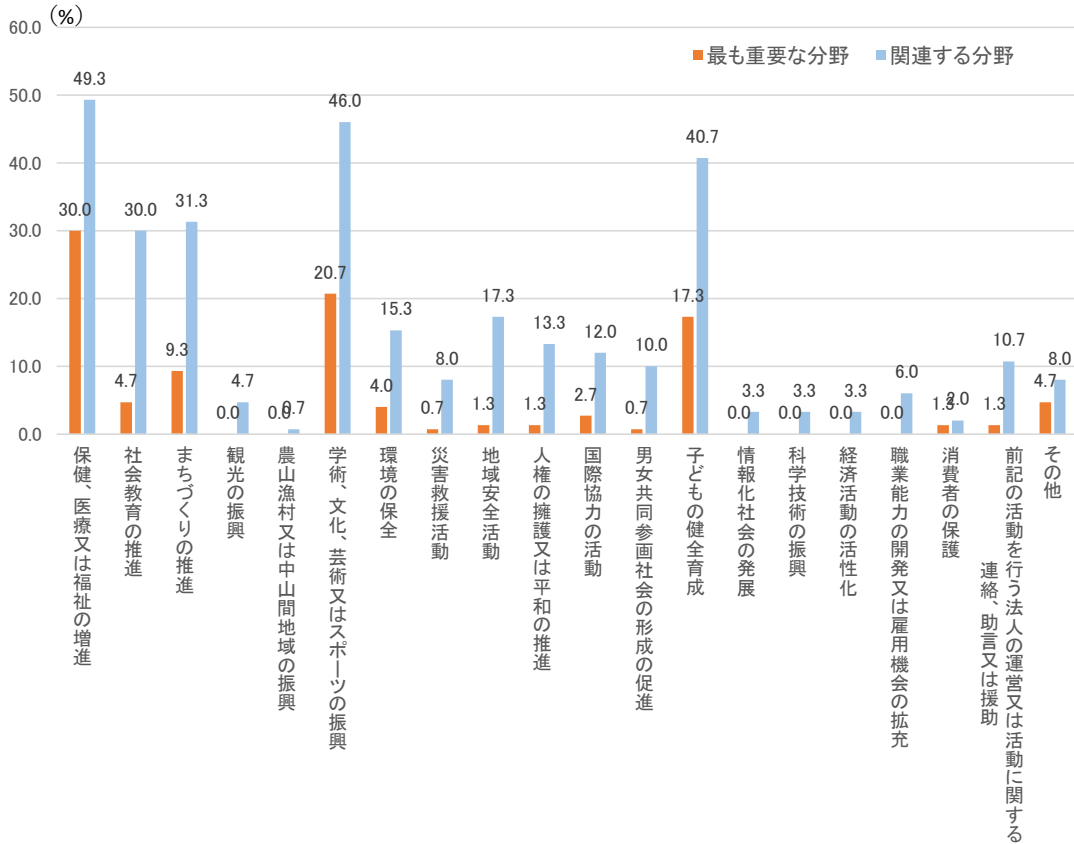
(資料)総務省・経済産業省「平成28年経済センサス活動調査」

(注)各調査時点の産業分類における中分類「71学術・開発研究機関」に該当する事業所および従業者数。

# 7 市民活動が盛んなまち

## 吹田市の状況

【市民公益活動団体の活動分野】



(資料)吹田市長官報「2017年度吹田市における市民公益活動団体実態調査」

- 近隣他都市と比べて、多くのNPO法人が活動している。
- 特に、保健・医療・福祉分野、学術・文化・芸術・スポーツ分野、子どもの育成分野で活動する団体が多くなっている。

## 他都市との比較

【主たる事務所を置くNPO法人数】

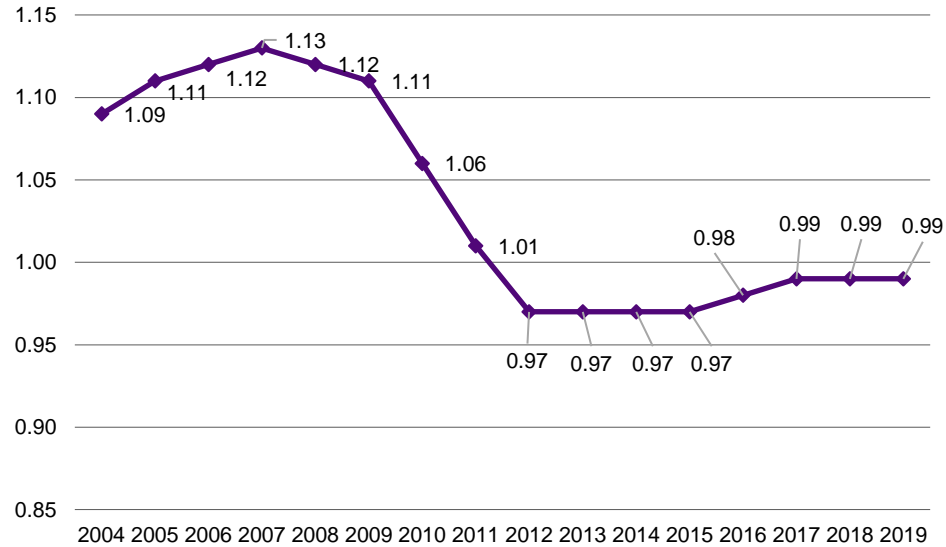
令和4年9月時点		
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	団体数
1	東大阪市	154
2	吹田市	126
3	枚方市	115
4	豊中市	106
5	高槻市	105
6	茨木市	82
7	寝屋川市	74
8	岸和田市	71
9	八尾市	65
10	箕面市	61
11	池田市	46
12	摂津市	19

(資料)内閣府NPO法人ポータルサイトより、大阪府、大阪市、堺市が所管するNPO法人を出力し、該当する団体を抽出

## 8 財政状況が比較的良好なまち

### 吹田市の状況

【財政力指数の推移】



(資料)総務省「市町村別決算状況調査」

- 財政力指数は近年1を下回っているが、全国の中核市と比較すると高い水準で安定している。

### 他都市との比較

【財政力指数(2019年)】

順位	中核市	値
1	豊田市	1.47
2	岡崎市	1.03
3	吹田市	0.99
4	宇都宮市	0.99
5	豊橋市	0.99
6	川越市	0.97
7	船橋市	0.96
8	川口市	0.96
9	柏市	0.96
10	西宮市	0.95

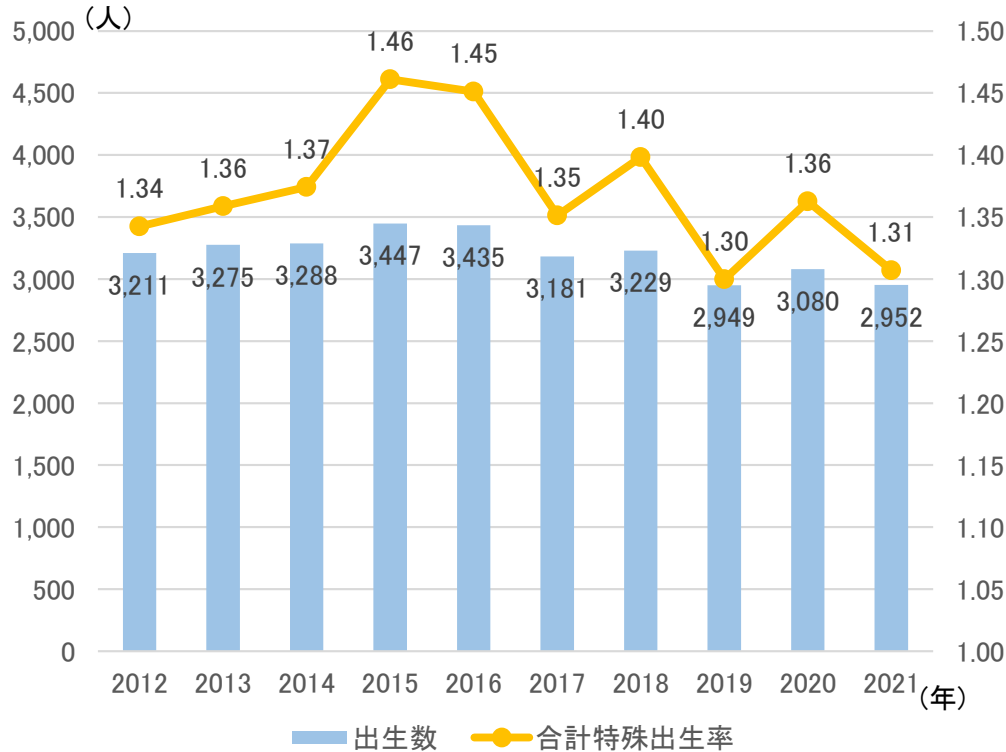
(資料)総務省「市町村別決算状況調査」



# 9 出生数の減少

## 吹田市の状況

【出生数・合計特殊出生率の推移】



(資料)厚生労働省「人口動態統計」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

- 出生数・合計特殊出生率は、2012年から2015年にかけて上昇がみられたが、2016年以降は減少傾向に転じている。
- 近隣他都市の合計特殊出生率と比較すると、直近の統計では中位に位置している。

## 他都市との比較

【合計特殊出生率】

2008～2012年			2013～2017年		
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	合計特殊 出生率	順位	北摂 中核市・施行時 特例市	合計特殊 出生率
1	岸和田市	1.540	1	摂津市	1.568
2	摂津市	1.500	2	豊中市	1.532
3	寝屋川市	1.440	3	岸和田市	1.529
4	茨木市	1.410	4	茨木市	1.512
5	八尾市	1.370	5	寝屋川市	1.469
6	豊中市	1.360	6	箕面市	1.466
7	東大阪市	1.340	7	吹田市	1.455
8	高槻市	1.330	8	八尾市	1.436
8	枚方市	1.330	9	高槻市	1.418
10	池田市	1.320	10	池田市	1.390
11	吹田市	1.290	11	枚方市	1.381
12	箕面市	1.280	12	東大阪市	1.363

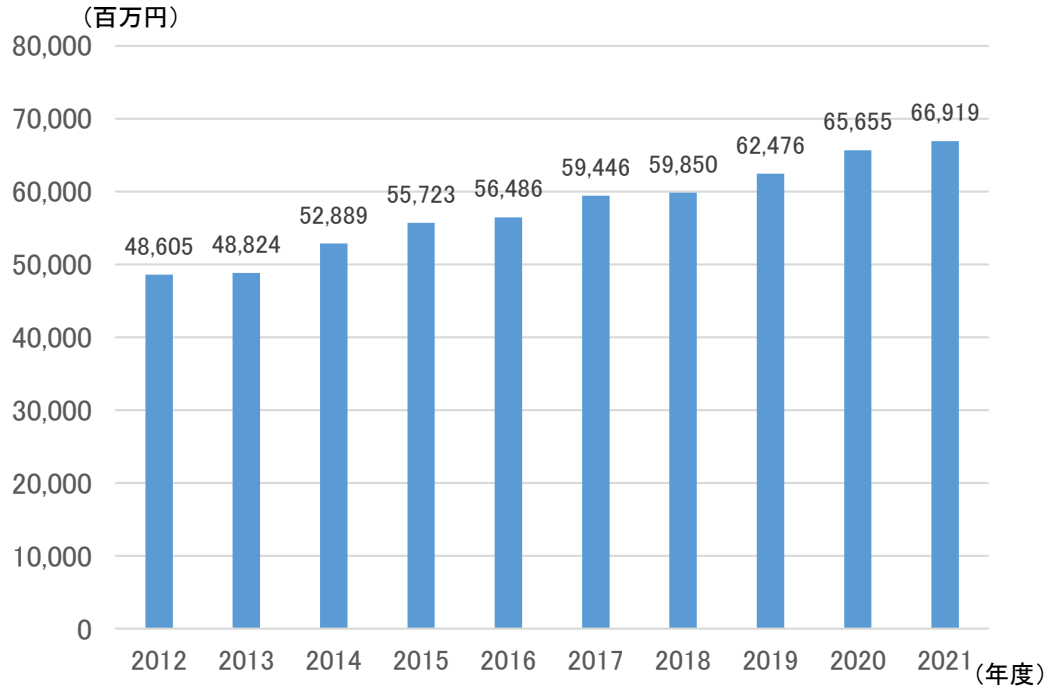
(資料)厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

(注) 上表の合計特殊出生率は、偶発的な出生数等の増減による影響を減少させるため、バイズ推定により補正を行っているため、左図のものと算出方法が異なる。

# 10 社会保障費の増大

## 吹田市の状況

【民生費(社会保障関係費)の推移】



(資料)吹田市統計書、決算報告資料(2021年度)

- これまでの10年間で民生費(社会福祉費、生活保護費等)は一貫して増加しており、今後も同様の傾向で推移することが見込まれる。
- 近隣他都市と比較して高齢人口割合が小さく、人口あたり民生費の水準は中位にある。

## 他都市との比較

【人口あたり民生費、高齢人口割合】

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口あたり 民生費 (円/人)
1	東大阪市	217,291
2	八尾市	211,066
3	岸和田市	199,987
4	豊中市	199,513
5	寝屋川市	198,737
6	摂津市	184,357
7	枚方市	176,558
8	吹田市	169,428
9	箕面市	166,744
10	高槻市	164,925
11	茨木市	163,591
12	池田市	157,045

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	高齢人口 割合 (%)
1	寝屋川市	30.5
2	枚方市	30.5
3	高槻市	29.6
4	八尾市	29.0
5	東大阪市	28.9
6	岸和田市	28.8
7	池田市	27.2
8	豊中市	26.3
9	箕面市	26.0
10	摂津市	26.0
11	茨木市	24.8
12	吹田市	23.8

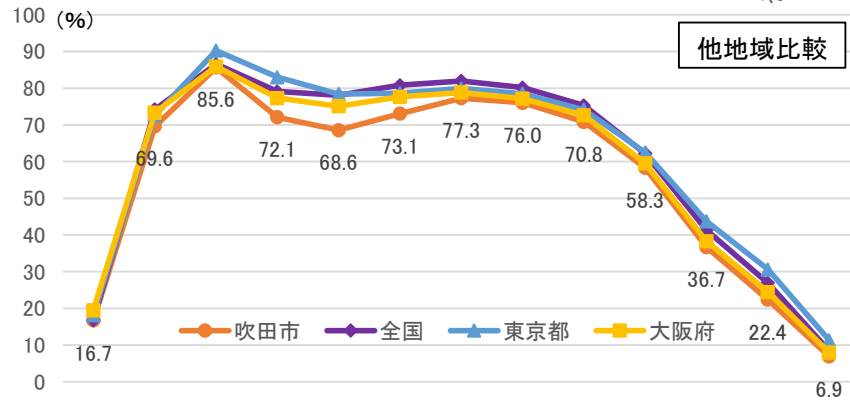
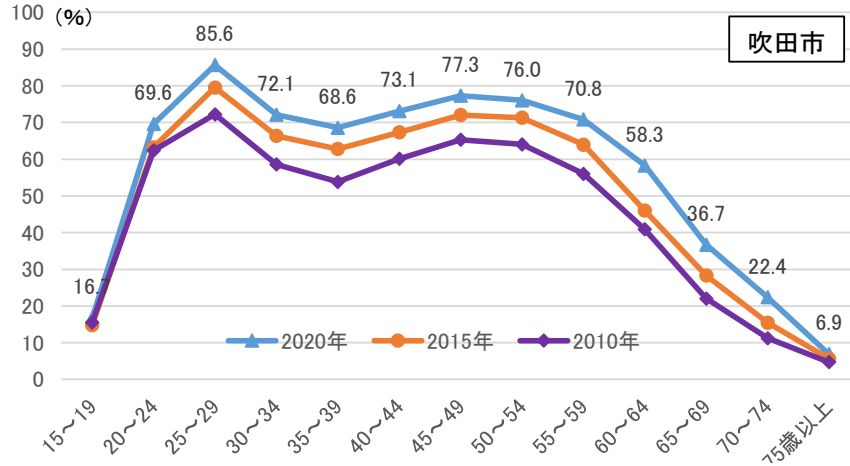
(資料)大阪府「令和3年度大阪府統計年鑑」

(注)人口あたり民生費は、令和3年度民生費および令和3年1月時点住民基本台帳人口より算出

# 11 女性の労働力率の低さ

## 吹田市の状況

【年齢5歳階級別女性の労働力率(2020年)】



(資料)総務省「国勢調査」

- 全国及び大都市圏(東京都、大阪府)と比較して、30歳代から40歳代の女性の労働力率が低く、「M字カーブ」は徐々に解消しつつあるものの、いまだに顕著である。
- 近隣他都市と比較しても、M字カーブの「谷」にあたる35~39歳の女性の労働力率は低い水準にある。

## 他都市との比較

【35~39歳女性の労働力率(2020年)】

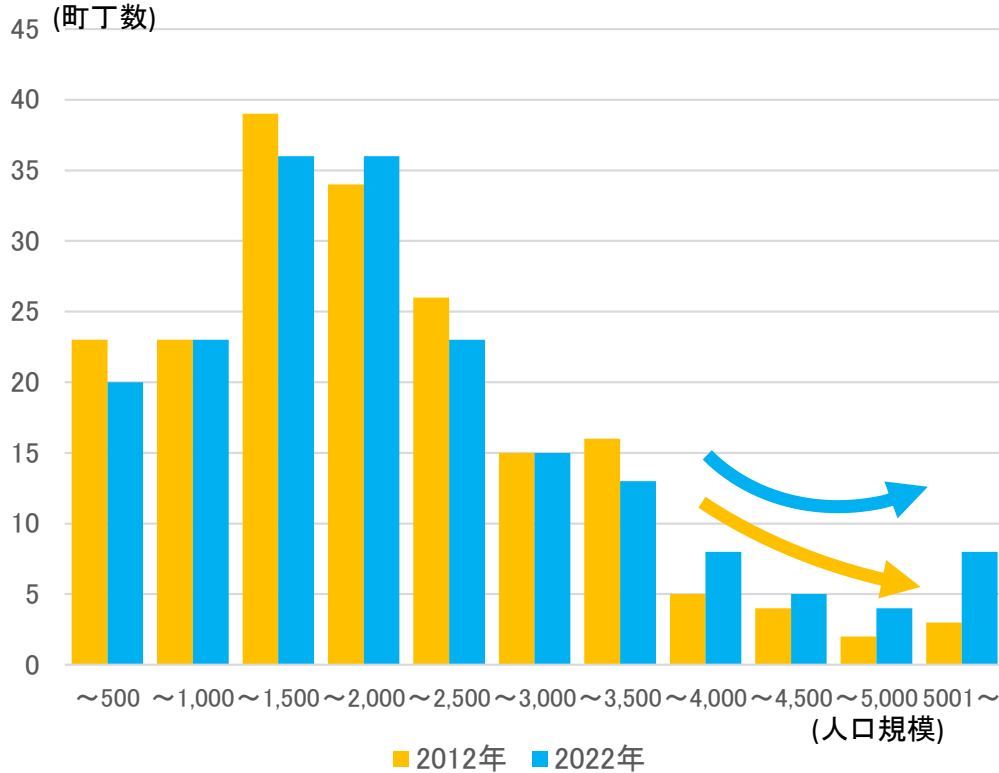
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	35~39歳 女性労働力率
1	岸和田市	78.18
2	摂津市	76.57
3	東大阪市	75.85
4	枚方市	74.60
5	八尾市	74.20
6	高槻市	74.04
7	寝屋川市	73.88
8	茨木市	72.18
9	池田市	70.38
10	箕面市	68.90
11	豊中市	68.62
12	吹田市	68.56

(資料)総務省「国勢調査」

# 12 人口偏在に伴う諸問題

## 吹田市の状況

【人口規模別町丁数の変化(2012年→2021年)】



(資料)吹田市住民基本台帳

- 2012年から2022年にかけて、人口5,000人以上の地域(町丁)が大きく増加している。
- 一方で人口減少が著しい地区もあり、学校ごとの児童・生徒数の偏りが大きくなっているなどの課題が生じている。

## 他都市との比較

【人口増加地域・減少地域(2012年→2022年)】

順位	増加数上位地域	増減(人)
1	千里丘北	5,047
2	藤白台3丁目	2,692
3	広芝町	1,942
4	津雲台3丁目	1,410
5	垂水町3丁目	1,057
6	千里山虹が丘	1,055
7	佐竹台1丁目	997
8	古江台5丁目	958
9	竹見台4丁目	897
10	千里山星が丘	885
11	江の木町	878
12	高野台1丁目	857
13	津雲台5丁目	846
14	垂水町1丁目	817
15	千里丘下	741
16	江坂町1丁目	716
17	青葉丘南	700
18	長野東	685
19	南金田2丁目	673
20	千里山西6丁目	660

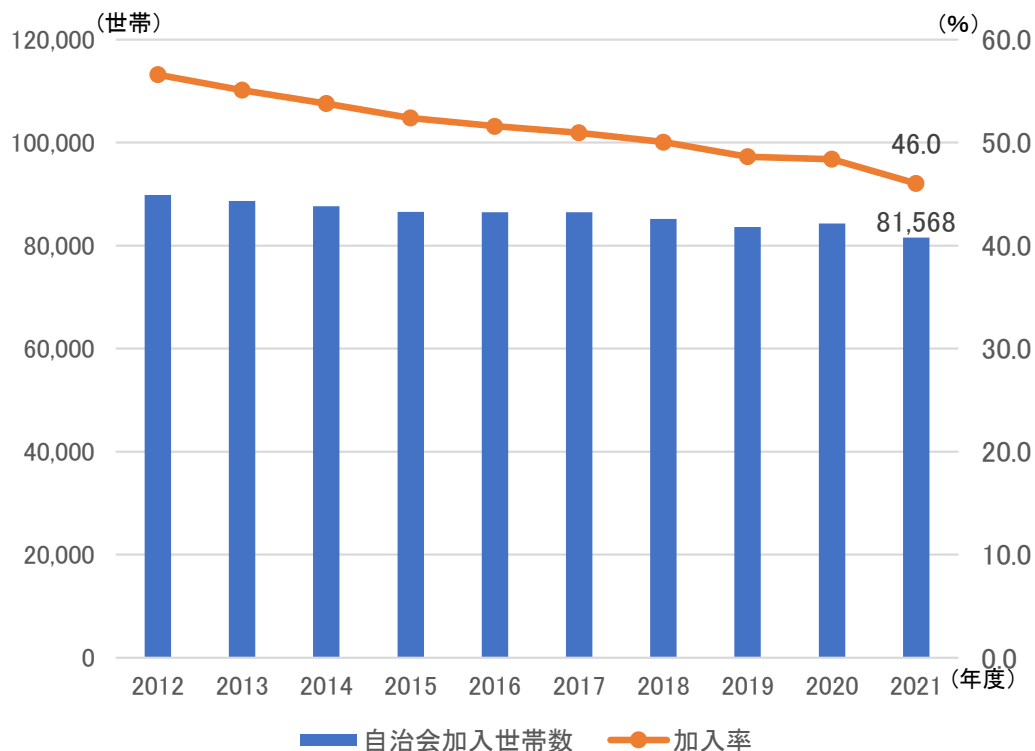
(資料)吹田市住民基本台帳

順位	増加数下位地域	増減(人)
1	山田西1丁目	-1,109
2	津雲台2丁目	-808
3	高野台4丁目	-780
4	山田西2丁目	-547
5	川園町	-504
6	五月が丘東	-406
7	新芦屋上	-402
8	片山町2丁目	-390
9	藤白台1丁目	-318
10	竹見台3丁目	-276
11	竹見台2丁目	-276
12	青山台1丁目	-273
13	上山田	-254
14	日の出町	-244
15	山田南	-222
16	千里丘西	-218
17	佐竹台5丁目	-208
18	高野台2丁目	-191
19	樫切山	-190
20	佐竹台4丁目	-156

# 13 地域活動の担い手の減少

## 吹田市の状況

【自治会加入世帯・加入率の推移】



(資料)吹田市資料

- 全国中核市および府内中核市と比較して、自治会加入率が低い。
- 自治会加入率は、減少傾向が続いており、2021年度は46.0%となっている。

## 他都市との比較

【中核市の自治会加入率】

順位	全国中核市	加入率 (%)	順位	府内中核市	加入率 (%)
-	(平均)	68.0	-	(平均)	59.6
1	長野市	95.8	1	寝屋川市	85.0
2	高崎市	93.0	2	枚方市	67.2
3	姫路市	89.6	3	東大阪市	65.1
4	岡崎市	89.0	4	高槻市	57.4
5	大分市	87.8	5	八尾市	58.9
6	盛岡市	87.0	6	吹田市	46.0
7	前橋市	86.7	7	豊中市	37.9
8	山形市	86.6			
9	寝屋川市	85.0			
10	富山市	84.0			
...	...	...			
54	八戸市	53.8			
55	鹿児島市	52.1			
56	宮崎市	52.0			
57	函館市	51.0			
58	吹田市	46.0			
58	尼崎市	46.0			
60	豊中市	37.9			
61	那覇市	15.5			

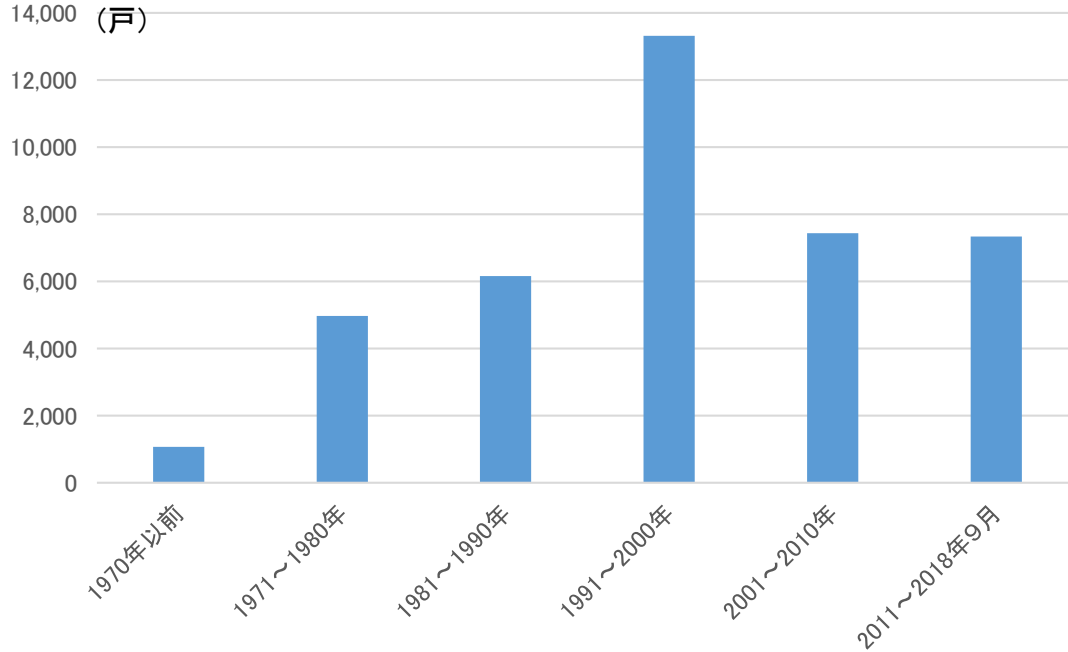
(資料)中核市市長会「都市要覧(令和3年度)」より作成

(注) 全国中核市内の順位には、倉敷市(参照資料にデータ記載なし)を含まない

# 14 民間住宅の老朽化

## 吹田市の状況

【建築時期別 民営借家(非木造)建築数(2018年)】



(資料)国土交通省「平成30年住宅・土地統計調査」

- 近隣他都市と比較して、老朽化したマンション(非木造民間借家)の戸数が多く、老朽化への対策を促すことが求められる。

## 他都市との比較

【1990年以前に建築されたマンション(非木造民営借家)の戸数】

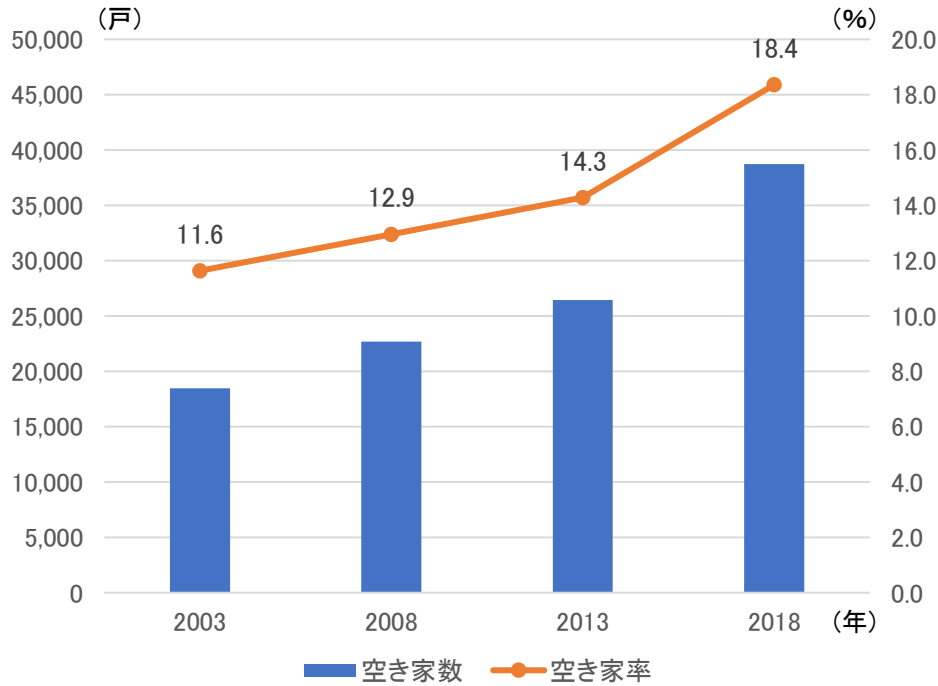
1990年以前に建築された 民営借家数(非木造)		
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	戸数
1	豊中市	18,300
2	東大阪市	14,210
3	茨木市	12,490
4	吹田市	12,200
5	高槻市	7,840
6	枚方市	7,790
7	寝屋川市	5,850
8	八尾市	5,470
9	箕面市	4,930
10	岸和田市	4,010
11	池田市	3,710
12	摂津市	3,200

(資料)国土交通省「平成30年住宅・土地統計調査」

# 15 空き家の増加

## 吹田市の状況

【空き家数・空き家率の推移】



(資料)国土交通省「住宅・土地統計調査」

- 空き家数・空き家率ともに増加しており、特に近年はその傾向が拡大している。
- 近隣他都市と比較しても空き家数・空き家率は高い水準にある。

## 他都市との比較

【空き家数・空き家率(2018年)】

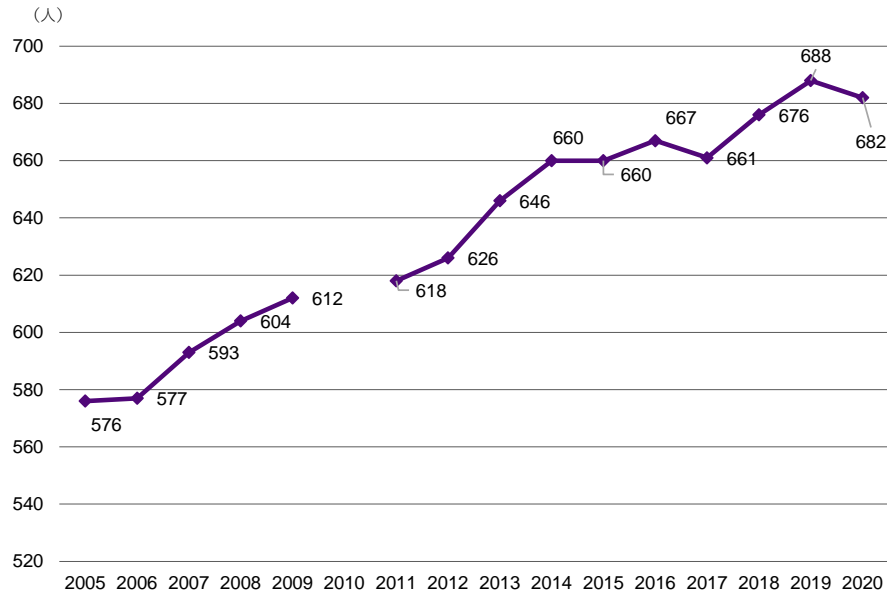
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	空き家数 (戸)	順位	北摂 中核市・施行時 特例市	空き家率 (%)
1	東大阪市	44,390	1	吹田市	18.4
2	吹田市	38,710	2	東大阪市	16.3
3	豊中市	30,830	3	豊中市	15.3
4	枚方市	23,560	4	寝屋川市	14.7
5	八尾市	18,830	5	八尾市	14.3
6	寝屋川市	17,200	6	岸和田市	13.9
7	高槻市	17,020	7	摂津市	13.8
8	茨木市	14,690	8	箕面市	13.2
9	岸和田市	11,810	9	池田市	12.5
10	箕面市	9,060	10	枚方市	12.4
11	池田市	6,660	11	茨木市	10.9
12	摂津市	5,940	12	高槻市	10.3

(資料)国土交通省「住宅・土地統計調査」

# 16 教員数の少なさ

## 吹田市の状況

【中学校教員数】



(資料)文部科学省「学校基本調査」

- 教員数は順調に伸びているものの、生徒あたりの教員数は府内の他市と比較しても非常に少ない。

## 他都市との比較

【生徒100人あたりの教員数(中学校)】

順位	北摂 中核市・施行時 特例市	教員数 (人)
—	大阪府	7.65
1	摂津市	8.25
2	八尾市	8.08
3	箕面市	8.08
4	東大阪市	7.63
5	岸和田市	7.40
6	茨木市	7.26
7	豊中市	7.22
8	高槻市	7.22
9	池田市	7.14
10	枚方市	7.00
11	寝屋川市	6.90
12	吹田市	6.73

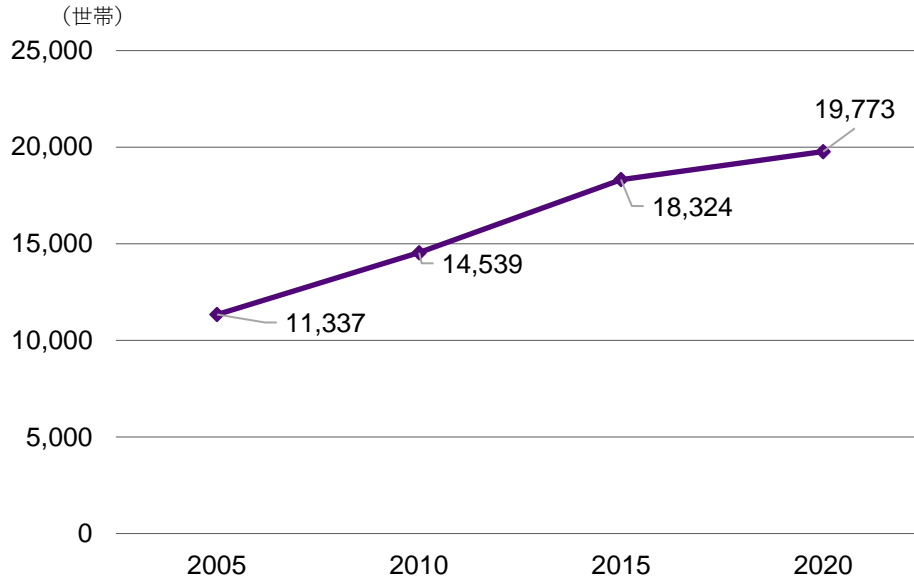
(資料)文部科学省「令和2年度学校基本調査」



# 17 高齢単身世帯数の増加

## 吹田市の状況

【高齢単身世帯の数】



(資料)総務省「国勢調査」

- 大阪府平均と比較した場合は高齢者に占める単身世帯の割合は低いものの、全国と比較すると、高齢者に占める高齢単身世帯の割合は比較的高い。

## 他都市との比較

【高齢者に占める高齢単身世帯の割合(2020年)】

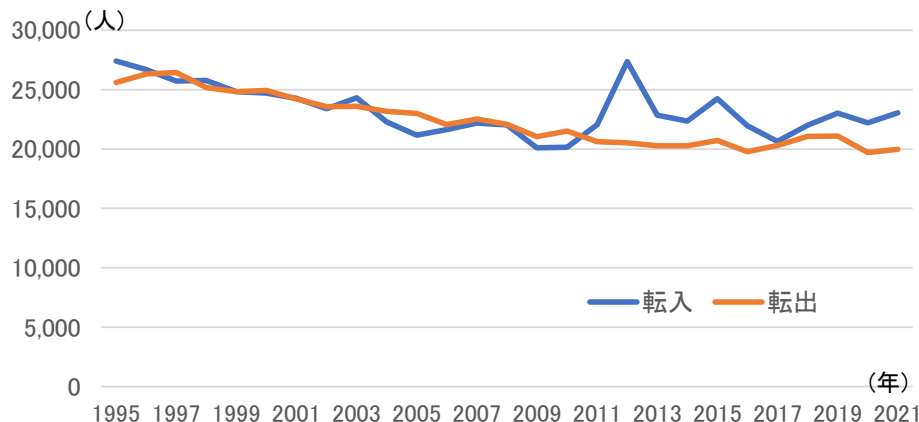
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	割合
-	大阪府	24.0%
1	豊中市	24.3%
2	東大阪市	23.9%
3	八尾市	22.8%
4	吹田市	22.3%
5	摂津市	21.9%
6	寝屋川市	21.9%
7	池田市	21.0%
8	岸和田市	20.2%
9	高槻市	19.3%
10	茨木市	19.3%
11	箕面市	18.3%
12	枚方市	18.0%

(資料)総務省「令和2年度国勢調査」

# 18 住民の入れ替わりが多いまち

## 吹田市の状況

【転入転出者数の推移】



(資料)総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- 吹田市では毎年、転入・転出合わせて4万人以上の人口が出入り(移動)している。近年は転入超過が続いているものの、転出数も2万人前後で推移しており、毎年およそ5%の住民が入れ替わっている状態である。
- この人口に対する移動数の多さは、近隣他都市や府内の中核市と比べても特に多いと言える。
- 常に人が入れ替わり、活気をもたらしている一方で、地域コミュニティの継続的なつながりを保つ上では困難が伴う可能性がある。

## 他都市との比較

【2021年度における転入・転出数:近隣市、府内中核市】

	住基人口	人口移動数 (転入+転出:人,%)		転入(人,%)		転出(人,%)	
		人	%	人	%	人	%
吹田市	378,869	41,096	10.8%	22,084	5.8%	19,012	5.0%
池田市	103,387	9,204	8.9%	4,760	4.6%	4,444	4.3%
豊中市	408,802	36,214	8.9%	18,283	4.5%	17,931	4.4%
茨木市	283,504	23,113	8.2%	11,916	4.2%	11,197	3.9%
箕面市	139,126	11,196	8.0%	5,908	4.2%	5,288	3.8%
西宮市	483,394	38,683	8.0%	19,556	4.0%	19,127	4.0%
尼崎市	460,148	33,958	7.4%	16,751	3.6%	17,207	3.7%
東大阪市	482,133	32,321	6.7%	16,065	3.3%	16,256	3.4%
明石市	304,906	19,920	6.5%	10,426	3.4%	9,494	3.1%
寝屋川市	229,177	14,492	6.3%	7,314	3.2%	7,178	3.1%
高槻市	349,941	21,179	6.1%	10,667	3.0%	10,512	3.0%
枚方市	397,681	23,776	6.0%	11,841	3.0%	11,935	3.0%
八尾市	263,693	15,535	5.9%	7,744	2.9%	7,791	3.0%

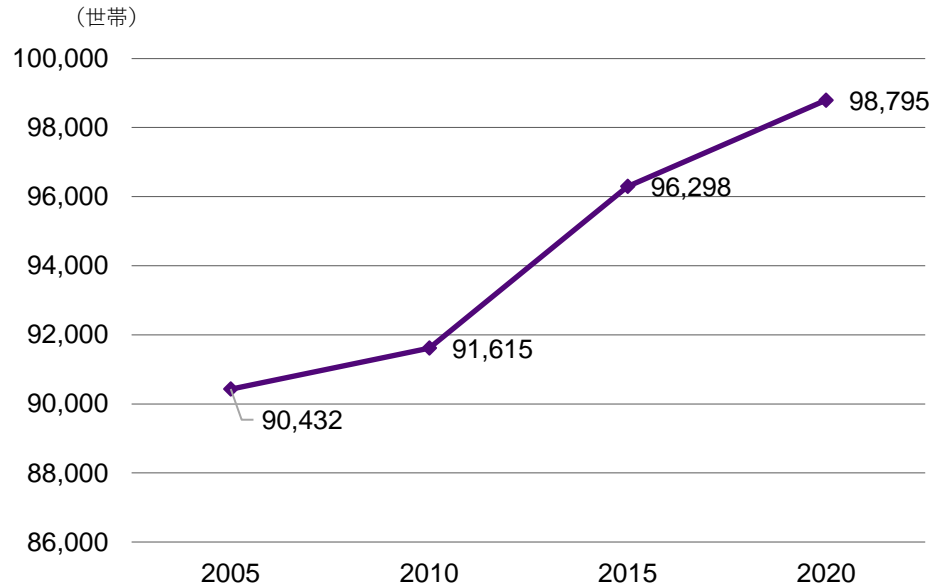
(資料)総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注)住基人口は2022年4月1日時点

# 19 核家族世帯数の増加

## 吹田市の状況

【核家族世帯数】



(資料)総務省「国勢調査」

- 核家族世帯数は増加しているものの、核家族世帯の割合は大阪府の中では比較的低い。

## 他都市との比較

【総世帯数に占める核家族世帯の割合(2020年)】

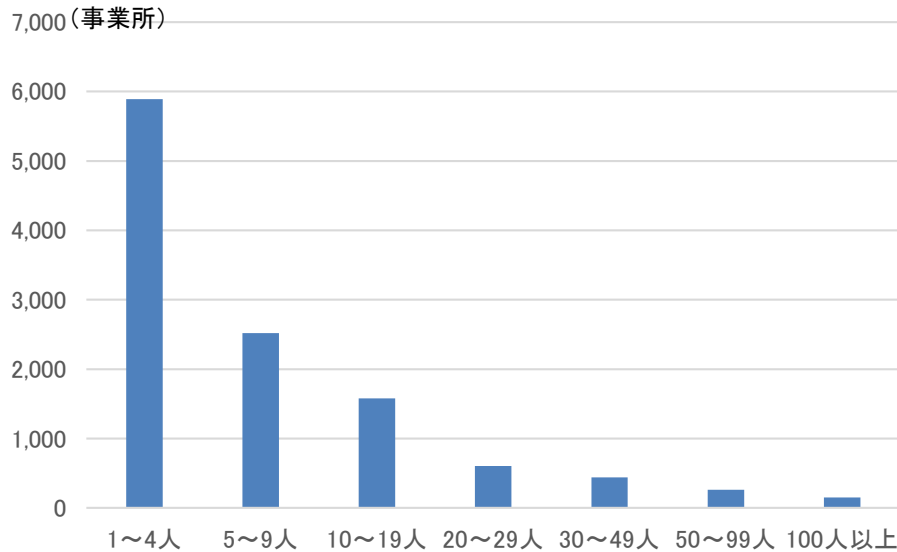
順位	北摂 中核市・施行時特 例市	割合
-	大阪府	53.1%
1	箕面市	62.0%
2	高槻市	61.9%
3	豊中市	61.1%
4	八尾市	60.6%
5	寝屋川市	60.4%
6	枚方市	59.8%
7	茨木市	59.5%
8	岸和田市	59.4%
9	摂津市	55.4%
10	池田市	55.4%
11	吹田市	54.9%
12	東大阪市	51.8%

(資料)総務省「令和2年度国勢調査」

## 20 中小企業の立地状況

### 吹田市の状況

【従業員規模別事業所数(2016年)】



(資料)総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

- 近隣他都市と比較して、従業員数の少ない事業所(従業員数1~4人)の割合が小さく、従業員数10人以上の事業所の割合が大きくなっている。

### 他都市との比較

【全事業所に占める従業員規模別事業所数の割合(2016年)】

順位	北摂 中核市・施行 時特例市	従業員 1~4人 事業所割合
1	寝屋川市	60.3
2	池田市	60.1
3	岸和田市	59.0
4	豊中市	58.4
5	八尾市	57.7
6	高槻市	56.9
7	東大阪市	56.5
8	茨木市	55.0
9	箕面市	54.6
10	枚方市	53.8
11	摂津市	52.2
12	吹田市	51.1

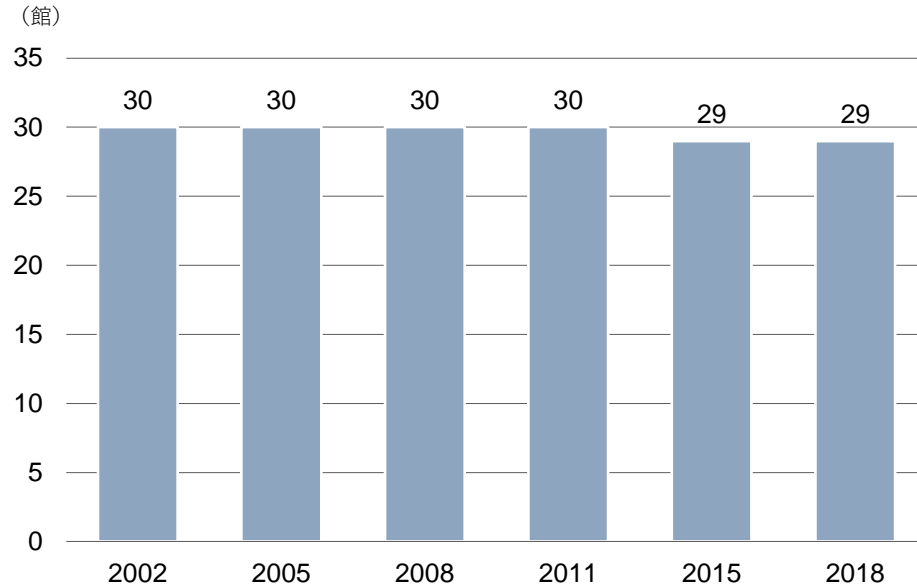
順位	北摂 中核市・施行 時特例市	従業員 10人以上 事業所割合
1	摂津市	26.5
2	吹田市	26.4
3	枚方市	25.5
4	茨木市	24.9
5	箕面市	24.5
6	東大阪市	23.2
7	豊中市	22.2
8	高槻市	22.0
9	八尾市	21.7
10	岸和田市	21.1
11	寝屋川市	21.0
12	池田市	19.7

(資料)総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

## 21 公民館数

### 吹田市の状況

【公民館の数】



(資料)文部科学省「社会教育調査」

- 人口当たりの公民館の数は他の都市と比較しても多い。

### 他都市との比較

【人口あたり公民館数(2018年)】

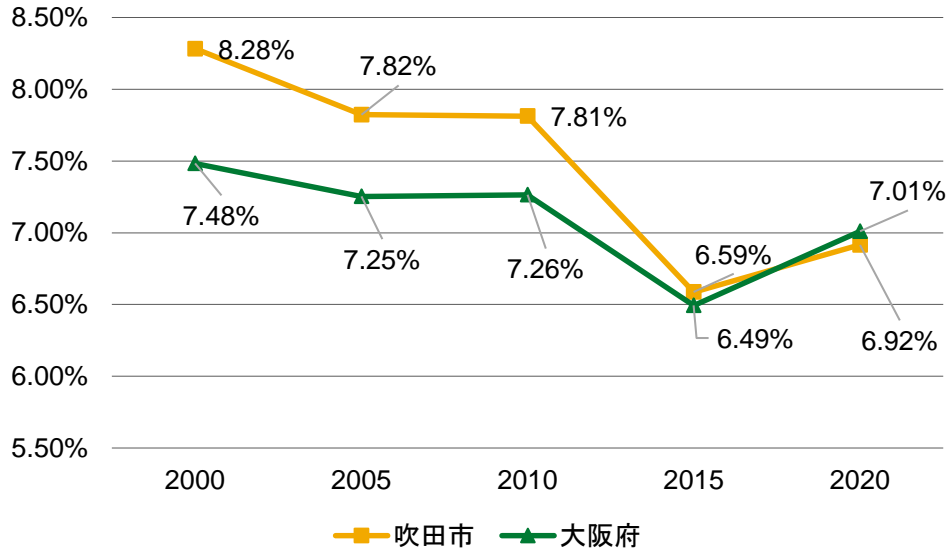
順位	北摂 中核市・施行時 特例市	人口1万人 あたり 公民館数
1	茨木市	1.17
2	岸和田市	0.81
3	吹田市	0.78
4	東大阪市	0.63
5	摂津市	0.59
6	高槻市	0.40
7	豊中市	0.10
8	池田市	0.10
9	寝屋川市	0.04
10	八尾市	0
11	箕面市	0
12	枚方市	0

(資料)文部科学省「平成30年社会教育調査」、総務省「平成30年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

## 22 雇用者における役員比率

### 吹田市の状況

【雇用者における役員比率】



(資料)総務省「国勢調査」

- 大阪府全体と比較した場合、2020年段階では概ね平均と同水準である。
- 2000年から2010年頃までは大阪府全体を0.5%~1%上回っていたが、2010年から2015年にかけて、大幅に比率は下落し、その後は同水準で推移している。

### 他都市との比較

【雇用者における役員比率】

雇用者における役員比率 (2000年)		
順位	大阪府の市	比率
1	箕面市	10.0%
2	大阪市	9.1%
3	大阪狭山市	8.9%
4	豊中市	8.3%
5	吹田市	8.3%
6	東大阪市	7.9%
7	羽曳野市	7.7%
8	堺市	7.6%
9	富田林市	7.5%
10	八尾市	7.5%
11	池田市	7.4%

雇用者における役員比率 (2020年)		
順位	大阪府の市	比率
1	箕面市	9.4%
2	東大阪市	8.2%
3	大阪市	8.0%
4	八尾市	8.0%
5	豊中市	7.9%
6	大阪狭山市	7.4%
7	富田林市	7.2%
8	羽曳野市	7.1%
9	藤井寺市	7.1%
10	四條畷市	7.1%
11	吹田市	6.9%

(資料)総務省「令和2年度国勢調査」

市の強み・弱み(内部環境)、社会情勢の主な変化(外部環境)を踏まえて考えられる取組

		外部環境		
		機会	脅威	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会のデジタル化が加速</li> <li>② リモートワークの普及</li> <li>③ SDGs理念の浸透</li> <li>④ 衛生管理・健康づくりへの意識向上</li> <li>⑤ ワークライフバランスへの意識向上</li> <li>⑥ 社会人の学びの推進</li> <li>⑦ 中核市移行に伴う事務権限拡大</li> <li>⑧ 大阪万博2025の開催</li> <li>⑨ 自治体DXの要請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナウイルス感染症の拡大</li> <li>② 全国的な少子高齢化の進行</li> <li>③ 災害の激甚化</li> <li>④ 気候変動による酷暑化</li> <li>⑤ 移動手段の多様化に伴う公共交通の衰退</li> <li>⑥ サイバー犯罪被害の増加</li> <li>⑦ デジタルデバイドの顕在化</li> </ul>	
内部環境	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人口増加率が高いまち</li> <li>② 医療が充実しているまち</li> <li>③ 所得の多い人が多く住むまち</li> <li>④ 公園が広く、たくさんあるまち</li> <li>⑤ 教育に関わる人が多くいるまち</li> <li>⑥ 学術研究機関が多いまち</li> <li>⑦ 市民活動が盛んなまち</li> <li>⑧ 財政状況が比較的良好なまち</li> </ul>	強み×機会	強み×脅威
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 出生数の減少</li> <li>② 社会保障費の増大</li> <li>③ 女性の労働力率の低さ</li> <li>④ 人口偏在に伴う諸問題</li> <li>⑤ 地域の担い手の減少</li> <li>⑥ 民間住宅の老朽化</li> <li>⑦ 空き家の増加</li> <li>⑧ 教員数の少なさ</li> <li>⑨ 高齢単身世帯の増加</li> </ul>	弱み×機会	弱み×脅威

外部環境×内部環境を踏まえて考えられる取組